

業績 (2013 年度)

A. 原著論文

1. Motohashi S, Mino Y, Hori K, Naito T, Hosokawa S, Furuse H, Ozono S, Mineta H, Kawakami J: Interindividual variations in aprepitant plasma pharmacokinetics in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy for the first time. *Biol Pharm Bull* 36: 676–681, 2013
2. Naito T, Tashiro M, Ishida T, Ohnishi K, Kawakami J: Cancer cachexia raises the plasma concentration of oxycodone through the reduction of CYP3A but not CYP2D6 in oxycodone-treated patients. *J Clin Pharmacol* 53: 812–818, 2013
3. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: An algorithm for the identification of heparin-induced thrombocytopenia using a medical information database. *J Clin Pharmacol Ther* 38: 423–428, 2013
4. Takahashi Y, Nishikawa M, Shinotsuka H, Matsui Y, Ohara S, Imai T, Takakura Y: Visualization and in vivo tracking of the exosomes of murine melanoma B16-BL6 cells in mice after intravenous injection. *J Biotechnol* 165: 77–84, 2013
5. Kodama Y, Harauchi S, Kawanabe S, Ichikawa N, Nakagawa H, Muro T, Higuchi N, Nakamura T, Kitahara T, Sasaki H: Safe and effective delivery of small interfering RNA with polymer- and liposomes-based complexes. *Biol Pharm Bull* 36: 995–1001, 2013
6. Satoh H, Ide N, Kagawa Y, Maeda T: Hepatic steatosis with relation to increased expression of peroxisome proliferator-activated receptor- γ in insulin resistant mice. *Biol Pharm Bull* 36: 616–623, 2013
7. Yagi T, Naito T, Doi M, Nagura O, Yamada T, Maekawa M, Sato S, Kawakami J: Plasma exposure of free linezolid and its ratio to MIC varies in critically ill patients. *Int J Antimicrob Agents* 42: 329–334, 2013
8. Tashiro M, Naito T, Ohnishi K, Kagawa Y, Kawakami J: Impact of genetic and non-genetic factors on clinical responses to prochlorperazine in oxycodone-treated cancer patients. *Clin Chim Acta* 429: 175–180, 2014
9. Naito T, Yamada T, Yagi T, Kawakami J: Simple and validated UHPLC method coupled to UV detection for determination of daptomycin in human plasma and urine. *Biomed Chromatogr* 28: 317–319, 2014
10. Tanaka N, Naito T, Yagi T, Doi M, Sato S, Kawakami J: Impact of CYP3A5*3 on plasma exposure and urinary excretion of fentanyl and norfentanyl in the early post-surgical period. *Ther Drug Monit* (in press, 2013)

11. Hori K, Kobayashi N, Atsumi H, Nagayama A, Kondoh M, Noge I, Kimura M, Utsugi H, Iwasaki T, Nakamura M, Kimura T: Changes in compliance with Japanese antiemetic guideline for chemotherapy-induced nausea and vomiting: a nationwide survey using a distributed research network. *Support Care Cancer* (in press, 2013)
12. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Antoku Y, Nakashima N, Yokoi H, Ohe K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Evaluation of two Japanese regulatory actions using medical information databases: a “Dear Doctor” letter to restrict oseltamivir use in teenagers, and label change caution against co-administration of omeprazole with clopidogrel. *J Clin Pharmacol Ther* (in press, 2013)
13. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: A detection algorithm for drug-induced liver injury in medical information databases using the diagnostic scale in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* (in press, 2014)

B. 記事・総説・寄稿

1. 八木達也, 内藤隆文, 山田尚広, 川上純一: 症例 1: SA) 髄膜炎患者に対する抗 MRSA 薬の投与. *Jpn Pharmacol Ther* (薬理と治療) 41: 734–737, 2013
2. 堀雄史, 川上純一: 医薬品等の市販後安全対策のための病院医療情報データベースを活用した薬剤疫学研究. 特集: これからの市販後安全対策, レギュラトリーサイエンス学会誌 3: 151–155, 2013
3. 川上純一: 挑戦しよう! 学会発表. *Special feature, ApoTalk* 71: 2–5, 2013
4. 川上純一: 第 18 回浜名湖臨床薬理セミナーを開催するにあたって: エビデンスと医薬品の価値. *Jpn Pharmacol Ther* (薬理と治療) 41: 730, 2013
5. 川上純一: 薬剤師がつくる研究論文-組織運営と医療貢献に貢献. 編集長 VISITING, 医薬ジャーナル 49: 2896–2901, 2013
6. 内藤隆文: 製薬企業による医薬品リコールの実態調査とその要因分析. *医療の広場* 54: 13–17, 2014
7. 加藤真也, 内藤隆文, 間賀田泰寛, 川上純一: FDG 品質検査試験業務による放射線被ばくに対するリスクマネジメントを目的とした職員訓練用プログラムの構築. 連載: リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～ (87). *医薬ジャーナル* 50: 1005–1008, 2013
8. 川上純一: 巻頭言: 男女共同参画社会づくり宣言書. *静岡県病院薬剤師会会報* 63: 4–6, 2014
9. 平野公美, 堀雄史: 病棟薬剤業務実施加算への取組. 特集 I. 病棟薬剤業務実施加算へ

の取組. 静岡県病院薬剤師会会報 63: 18-19, 2014

C. 報告書

1. 川上純一（代表）, 木村通男, 堀雄史, 大江和彦, 中島直樹, 横井英人, 池田俊也, 斎藤嘉朗, 頭金正博: 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究（総括研究報告書）. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 平成 24 年度総括・分担研究報告書, p.1-10, 2013
2. 堀雄史: 臨床情報検索システム D*D を用いた薬剤による検査値異常の検出方法に関する検討（分担研究報告書）. 川上純一（代表）, 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 平成 24 年度総括・分担研究報告書, p.29-34, 2013

D. 番組出演・報道

1. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会 総会並びに学術講演会を開催（記事）. 薬事新報 No. 2781（2013 年 4 月 11 日）, p.22-23
2. 川上純一: 医科調剤料のアップ要望は見送り 次期改定で日病薬、日薬と共闘（記事）. メディファクス No. 6640（2013 年 7 月 17 日）, p.1
3. 川上純一: 持参薬考慮した服薬計画提案、病院薬剤部の 8 割 日病薬調査: 持参薬の議論「病院と保険薬局の両面で」日病薬・川上氏（記事）. メディファクス No. 6693（2013 年 10 月 4 日）, p.3
4. 川上純一: 日病薬調査 持参薬考慮した服薬計画提案、病院薬剤部の 8 割（記事）. 日刊薬業 No. 13809（2013 年 10 月 7 日）, p.8
5. 川上純一: 調剤報酬からの「財源移譲」論は筋違い: 日病薬・川上常務理事 病棟業務実施加算は精神・療養の日数拡大を. リスファクス No. 6431（2013 年 10 月 18 日）, p.1
6. 川上純一: 日病薬調査 持参薬考慮した服薬計画提案、病院薬剤部の 8 割（記事）. 日刊薬業 No. 13809（2013 年 10 月 7 日）, p.8
7. 川上純一: 医療情報 DB 検討会 「廃止論」行政事業レビューの指摘に反論相次ぐ（記事）. 日刊薬業 No. 13876（2014 年 1 月 21 日）, p.4-5
8. 川上純一, 魚住りえ: 新薬とジェネリック医薬品の違い. 暮らしを変える、薬のはなし Vol. 2（広告企画）, 毎日新聞（全国版朝刊）No. 49615（2014 年 1 月 22 日）
9. 川上純一: 日病薬・北田会長 病棟加算拡大を評価、精神・療養でも 8 週間算定可能

(記事) . リスファクス No. 6510 (2014年2月17日) , p.6

10. 内藤隆文, 堀雄史: 薬剤部訪問 浜松医科大学医学部附属病院. Excellent Hospital 23: 10-11, 2014
11. 川上純一: 日病薬北田現会長を信任 学術活動の活性化目指す(記事) . 薬事日報 No. 11388 (2014年2月19日) , p.1

E. 著書・翻訳

1. 内藤隆文, 川上純一(分担執筆): モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト 第3版. 病院・薬局実務実習東海地区調整機構/監、実務実習テキスト作成研究会/編, じほう, p.19-20, p.26-28, 東京, 2013

F. 学会活動

【特別講演・シンポジウム・受賞講演など】

国内学会

1. 内藤隆文: 薬物療法専門薬剤師の現状と将来展望. 高い専門性に基づく薬物治療業務の実践と高度ジェネラリストの人材育成. 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013年9月
2. 内藤隆文, 田中紀章, 川上純一: 周術期医療で薬剤師が担うべきことを考える. 術後疼痛の個別化薬物療法を目的とした遺伝子多型の利用. 第23回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013年9月
3. 川上純一: がん性疼痛緩和領域における個別化薬物療法の構築. 第34回日本臨床薬理学会学術総会・臨床薬理研究振興財団. 2012年度(第23回)学術奨励賞研究成果発表, 東京, 2013年12月
4. 内藤隆文: 医師と薬剤師が手を結ぶ薬物治療を目指して. 薬剤師の薬物治療における教育研修への取り組みと研究活動との関わり. 第34回日本臨床薬理学会年会, 東京, 2013年12月
5. 八木達也: 集中治療室における病棟薬剤業務. 病棟薬剤師業務の実際 ~実務担当者からの報告~ . 第27回静岡県病院薬剤師会学術大会, 静岡, 2014年2月
6. 内藤隆文, 川上純一: がん患者における麻薬性鎮痛薬の薬物動態および臨床効果の個人差要因. 麻薬性鎮痛薬による適切な疼痛緩和治療を目指した薬物トランスポーター研究の最前線. 日本薬学会第134年会, 熊本, 2014年3月
7. 川上純一: 医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究. 佐藤記念国内賞受賞講演, 日本薬学会第134年会, 熊本, 2014年3月

【一般発表】

国際学会

1. Naito T, Tashiro M, Ishida T, Ohnishi K, Kawakami J: Cancer cachexia raises the plasma concentration of oxycodone through the reduction of CYP3A but not CYP2D6 in oxycodone-treated patients. 11th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics. Aug 2013 (Geneve, Switzerland)
2. Yamada T, Mino Y, Yagi T, Naito T, Kawakami J: Metabolic process of voriconazole to its N-oxide is saturable in clinical dose range. 11th Congress of the European Association for Clinical Pharmacology and Therapeutics. Aug 2013 (Geneve, Switzerland)
3. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Development of an Algorithm for Detecting Heparin-Induced Thrombocytopenia and Assessment of the Risk Factors using a Medical Information Database. 29th ICPE (International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management). Aug 2013 (Montreal, Canada)
4. Naito T, Kubono N, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: Amlodipine passage into breast milk in lactating women with pregnancy-induced hypertension. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2013; 73rd International Congress of FIP. Sep 2013 (Dublin, Ireland)
5. Yagi T, Naito T, Yamada T, Doi M, Sato S, Kawakami J: Contribution of pharmacists to antimicrobial therapy in intensive care unit through a therapeutic drug monitoring of linezolid in a Japanese hospital. World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2013; 73rd International Congress of FIP. Sep 2013 (Dublin, Ireland)
6. Mino Y, Naito T, Kasahara K, Terasaka H, Kawakami J: Medication errors in prescription, dispensing, and administration of medicines to the child patients in Hamamatsu University Hospital. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2013 Midyear). Dec 2013 (Orlando, FL, USA)

国内学会

多数のため省略

G. 学会・会議開催

1. 第5回研究室リトリート, 浜松, 2013年5月

H. 研究会

1. 平尾顕正: ワルファリンの抗血液凝固能に及ぼす抗菌薬の影響. 第 45 回静岡副作用研究会, 浜松, 2013 年 4 月
2. 久保野尚子: 妊娠高血圧症候群の授乳婦におけるアムロジピンの母乳移行性の評価. 静岡県病院薬剤師会, 妊婦・授乳婦薬物療法研修会, 静岡, 2013 年 6 月
3. 見野靖晃: 小児に起因する医薬品の関連するインシデントの質的解析. 静岡県病院薬剤師会, 西部支部例会, 浜松, 2013 年 10 月
4. 久保野尚子: 授乳婦における抗悪性腫瘍剤の母乳中への移行性とその残存性の評価. 静岡県病院薬剤師会, 西部支部例会, 浜松, 2013 年 11 月

I. 学外講義・特別講演

1. 内藤隆文: チーム医療における薬剤師の役割と医師および看護師との関わり-薬剤師の将来像. 平成 25 年度富山大学医療学入門, 富山, 2013 年 4 月
2. 川上純一: 診療報酬制度と平成 26 年度改定に向けた取り組み. 診療報酬制度と精神科薬剤師. 平成 25 年度精神科病院委員会セミナー, 日本病院薬剤師会, 東京, 2013 年 5 月
3. 川上純一: 病棟薬剤師業務の診療報酬評価とチーム医療推進の現状. 第 580 回医療経済研究会, 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構, 東京, 2013 年 5 月
4. 川上純一: チーム医療と病棟薬剤業務: 平成 24 年度診療報酬改定をふまえて. 平成 24 年度国公立大学病院薬剤部職員研修会, 東京大学医学部附属病院, 東京, 2013 年 5 月
5. 川上純一: 診療報酬改定と病院薬剤師: 将来展望を含めて. 薬学セミナー2013 (第 49 回), 札幌, 2013 年 6 月
6. 川上純一: 目指す今日的病院薬剤師像: チーム医療・病棟加算等の現状と今後. 平成 25 年度社会保険病院薬剤部長研修会, 東京, 2013 年 6 月
7. 川上純一: チーム医療と病棟薬剤業務: 薬剤師の高い専門性とは. 徳州会グループ病院薬剤部責任者研修会, 鎌倉, 2013 年 6 月
8. 川上純一: ジェネリックや医薬品に関する最近の動向. 浜松市医師会第 316 回生涯教育研修会, 浜松, 2013 年 6 月
9. 川上純一: 病棟薬剤業務の将来展望: 薬物治療への貢献. 病棟薬剤業務における薬剤師のスキルアップを目的としたカンファレンス企画キックオフ・ミーティング, 浜松, 2013 年 7 月
10. 川上純一: 診療報酬改定と病棟薬剤業務. 第 29 回東海医療薬学シンポジウム, 日本病

院薬剤師会東海ブロック, 名古屋, 2013 年 7 月

11. 川上純一: 病棟薬剤業務実施加算の現状と診療報酬改定の方向性. 病院薬剤師会セミナー, 公益社団法人神奈川県病院薬剤師会, 横浜, 2013 年 8 月
12. 川上純一: 「成長して、信頼されて、活躍できる」病院薬剤師になるためのキーポイント. 平成 25 年度新人研修会, 静岡県病院薬剤師会, 静岡, 2013 年 8 月
13. 川上純一: 病棟薬剤業務の診療報酬評価とチーム医療推進の将来展望. 第 23 回日本医療薬学会年会, 仙台, 2013 年 9 月
14. 川上純一: 研究成果を原著論文にしよう. 臨床・疫学研究への取組み-患者さんに参加していただく研究-. 第 46 回日本薬剤師会学術大会, 大阪, 2013 年 9 月
15. 川上純一: 診療報酬改定への取組みと今後の方向性. 病棟薬剤業務実施加算をめぐって, 病院薬剤部トップマネジメントフォーラム, 東京, 2013 年 10 月
16. 川上純一: 中小病院薬剤師への期待と将来展望, 日本病院薬剤師会平成 25 年度中小病院薬剤師実践セミナー, 大阪, 2013 年 10 月
17. 川上純一: 診療報酬改定と病棟薬剤業務実施加算の展望. 平成 25 年度全国労災病院薬剤部長会議, 独立行政法人労働者健康福祉機構, 川崎, 2013 年 10 月
18. 川上純一: 診療報酬改定とチーム医療推進の将来展望. 第 4 回病院薬剤師業務研究会, 大阪, 2013 年 11 月
19. 川上純一: 平成 26 年度改定に向けた病棟薬剤業務について. 平成 25 年度全国自治体病院協議会. 薬剤管理研修会, 東京, 2013 年 11 月
20. 川上純一: 病棟薬剤業務の将来展望: 薬物治療への貢献. 病棟管理業務若手薬剤師勉強会, 社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院, 中頭郡中城村 (沖縄県), 2013 年 11 月
21. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定の方向性と病院薬剤師の役割. 社会福祉法人恩賜財団済生会平成 25 年度薬剤部 (科・局) 長研修会, 東京, 2013 年 12 月
22. 川上純一: 診療報酬改定への取り組みと将来展望. 第 282 回岐阜県病院薬剤師会研修会・学術講演会, 岐阜, 2014 年 1 月
23. 川上純一: 病院薬剤師の方向性: 診療報酬改定を踏まえて. 平成 25 年度全国都市立病院薬局長協議会・研修会, 京都, 2014 年 2 月
24. 川上純一: 病院薬剤師を巡る現状と生涯研修: 開会の辞. 第 27 回静岡県病院薬剤師会学術大会, 静岡, 2014 年 2 月
25. 川上純一: 病院薬剤師の方向性: 診療報酬改定を踏まえて. 平成 25 年度全国都市立病院薬局長協議会・研修会, 京都, 2014 年 2 月
26. 川上純一: 病院薬剤部門マネジメント: 診療報酬改定や人材育成等に対応した組織作

- り。これからの病院薬剤部門のトップ像を探る，全国薬剤部長マネジメントセミナー，品川，2014年2月
27. 川上純一：医薬品の安全対策における意義・メリット。第3回医療情報データベース基盤整備事業のあり方に関する検討会，厚生労働省，東京，2014年2月
 28. 内藤隆文：薬物治療に関わる薬剤師の人材育成への取り組みと研究活動との関わり。特別講演。ファーマシューティカルケア フォーラム 三重，津，2014年2月
 29. 川上純一：健康医療分野におけるデータベースを活用した研究：医薬品の安全対策における意義・メリット。「厚生労働科学研究における戦略研究の課題抽出と評価に関する研究」新規課題班会議（研究代表者：黒川清），政策研究大学院大学，東京，2014年3月
 30. 川上純一：平成26年度診療報酬改定と病院薬剤師。急性期病院の未来と病院薬剤師の今後を考える，平成26年度診療報酬改定セミナー，大阪，2014年3月
 31. 川上純一：平成26年度診療報酬改定と病院薬剤師の方向性。近畿国立病院薬剤師会講演会，大阪，2014年3月
 32. 川上純一：平成26年度診療報酬改定の留意点。平成25年度静岡県病院薬剤師会学術講演会，静岡，2014年3月
 33. 鈴木吉成：病棟薬剤業務への取り組み。平成25年度静岡県病院薬剤師会学術講演会，静岡，2014年3月
 34. 川上純一：平成26年度診療報酬改定と病院薬剤師の今後。診療報酬を考える，病院薬剤師セミナー，名古屋，2014年3月
 35. 川上純一：中医協検証調査（病棟薬剤師関連）の結果。平成25年度日本病院薬剤師会医療政策部セミナー，東京，2014年3月
 36. 川上純一：平成26年度診療報酬改定におけるDPC制度見直しの中での薬剤。平成25年度日本病院薬剤師会医療政策部セミナー，東京，2014年3月

J. 研究助成

1. 川上純一（代表）、内藤隆文（分担）：平成25年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「がん性疼痛緩和に用いる鎮痛薬の個人差要因に基づく至適薬物療法の構築」（継続）
2. 内藤隆文（代表）：平成25年度科学研究費補助金，若手研究（B）「オピオイド投与患者におけるプロクロルペラジンの体内動態と薬効・副作用との関係解明」（継続）
3. 丸山修治（代表）：平成25年度科学研究費補助金，若手研究（B）「治療抵抗性関節リウマチ患者におけるタクロリムスの薬効・副作用の変動予測法の構築」（継続）
4. 等浩太郎（代表）：平成25年度科学研究費補助金，若手研究（B）「がん患者における

- オピオイドの鎮痛効果とドパミン神経系に及ぼす影響との関係解明」(新規)
5. 川上純一(分担), 堀雄史(分担), 佐井君江(代表): 平成 25 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)「医療情報データベースを用いた免疫関連バイオ医薬品と化学薬品間の相互作用評価」(新規)
 6. 高井伸彦(代表): 平成 25 年度科学研究費補助金, 奨励研究「新規制吐薬アプレピタントの脱カプセル化が薬効および薬物動態に及ぼす影響」(新規)
 7. 石田卓矢(代表): 平成 25 年度科学研究費補助金, 奨励研究「非小細胞肺癌患者におけるエルロチニブの血中動態に及ぼすがん悪液質の影響」(新規)
 8. 高科嘉章(代表): 平成 25 年度科学研究費補助金, 奨励研究「神経障害性疼痛に対するプレガバリンの治療反応性に影響を及ぼす要因の検討・解析」(新規)
 9. 久保野尚子(代表): 平成 25 年度科学研究費補助金, 奨励研究「授乳婦におけるアムロジピンの血中濃度に及ぼす因子の解明」(新規)
 10. 田代将貴(代表): 平成 25 年度科学研究費補助金, 奨励研究「がん患者におけるドパミン D2 受容体遮断薬による高プロラクチン血症の誘発因子の探索」(新規)
 11. 川上純一(代表), 堀雄史(分担), 木村通男, 大江和彦, 中島直樹, 横井英人, 池田俊也, 斎藤嘉朗, 頭金正博: 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金, 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究」(継続)
 12. 八木達也(代表), 川上純一(分担), 内藤隆文(分担), 土井松幸: 臨床薬理研究振興財団, 第 38 回研究奨励金(平成 25 年度)「集中治療管理下におけるデクスメデトミジンの鎮静効果および有害作用の個体差要因の解明」(新規)
 13. 見野靖晃(代表), 内藤隆文(分担), 川上純一(分担): 中富健康科学振興財団, 平成 25 年度(第 26 回)研究助成金「高尿酸血症患者におけるキサランオキシダーゼ活性に基づく新規尿酸管理法の構築」(新規)
 14. 見野靖晃: 日本病院薬剤師会(平成 25 年度)「Medication errors in prescription, dispensing, and administration of medicines to the child patients in Hamamatsu University Hospital」. ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議参加助成
 15. 山田尚広: 浜松医科大学. 平成 25 年度大学院生の国際学会発表支援事業「Metabolic process of voriconazole to its N-oxide is saturable in clinical dose range」(新規)
 16. 内藤隆文: 浜松医科大学. 平成 25 年度若手研究者の国際学会発表支援事業「Cancer cachexia raises the plasma concentration of oxymorphone through the reduction of CYP3A but not CYP2D6 in oxycodone-treated patients. Amlodipine passage into breast milk in lactating women with pregnancy-induced hypertension」(新規)

17. 八木達也：浜松医科大学. 平成 25 年度若手研究者の国際学会発表支援事業
「Contribution of pharmacists to antimicrobial therapy in intensive care unit through a
therapeutic drug monitoring of linezolid in a Japanese hospital」(新規)

K. 資格認定

1. 日本病院薬剤師会 がん専門薬剤師 (1 名)
2. 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 (1 名)
3. 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師 (11 名)
4. 日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師 (長期実務実習) (9 名)
5. 日本病院薬剤師会 放射性医薬品取り扱いガイドライン講習 受講 (5 名)
6. 日本医療薬学会 指導薬剤師 (3 名)
7. 日本医療薬学会 認定薬剤師 (9 名)
8. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師 (1 名)
9. 日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師 (1 名)
10. 日本臨床薬理学会 指導薬剤師 (2 名)
11. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師 (5 名)
12. 日本臨床薬理学会 認定 CRC (1 名)
13. 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 (8 名)
14. 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 (7 名)
15. 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 (2 名)
16. 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士 (2 名)
17. 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 (1 名)
18. 日本臨床化学会 認定臨床化学者 (1 名)
19. 有機溶剤作業主任者 技能講習受講 (2 名)
20. 普通第一種圧力容器取扱作業主任者 技能講習受講 (1 名)

L. 施設認定

1. 日本病院薬剤師会 がん専門薬剤師研修施設
2. 日本医療薬学会 認定薬剤師研修施設
3. 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
4. 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
5. 日本臨床薬理学会 認定薬剤師研修施設
6. 厚生労働省薬剤師養成事業 実務研修生受入施設